

「まもり神がみのいる国くに」

作..大石達起(デリシヤス)

【登場人物】とうじょうじんぶつ

★まもり神がみを信しんじている人ひと

まい・・・市民しみんの代表だいひょう

キクケン・・・神様かみさまの存在そんざいを信しんじる人ひと

ななこ・・・市民しみん

うた・・・市民しみん

★まもり神がみを信しんじていない人ひと

そらまめ・・・悪い王様わる おうさま(タイ人キックボクサー)

まめちゃん・・・化け猫ばけねこ

★まもり神がみの修理しゅうりをしている人ひと

さこくん・・・殿様とのさま

てっぺい・・・修理しゅうりしている人ひと

デリシヤス・・・修理しゅうりしている人ひと

★くに国の外そとの人ひと

たこす・・・かまいたち

りんご・・・みっぺのまもりがみ神

みっぺ・・・旅人たびひと

けいほく ものがたり いま ねんまえ こと  
京北の、むかしむかしの物語。今から200年前の事かもしれないし、2万年前  
の事かもしれないし、2億万年前の事かもしれない。

オープニング…森の中

おんがく  
音楽。

◎みんな、舞台上に出てきて森を演じる。カサカサ……ガサガサ……パリパリ…  
…など、いろいろな森の音が聞こえる。あるいは、森を演じているみんなのコソコ  
ソ話が森の音にも聞こえる。

(まめちゃん)「むかしむかしのお話です。」

(キクケン)「ここ、京北は、フリドニアとよばれていました。」

(キクケン)「この国には二人のエライ人がいました。」

(デリシヤス)「王様と、」

(デリシヤス)「お殿様です。」

(まめちゃん)「王様は自分の意見に逆らう人にタイキックをし、」

(キクケン)「お殿様はこの国のまもり神の修理をしていました。」

(ななこ)「あ、まもり神の話はまたあとで……。」

(デリシヤス)「あと、この物語に出てくるのは、まもり神を信じている人たち

と、お殿様と一緒に修理をしている人たちと、かまいたちと、妖精です。」

(キクケン)「そんなこの国に、一人の旅人がやって来ました。」

◎みっぺ、りんごを背負って出てくる。

みっぺ「こまったなあ、まよったなあ……。」

(さこくん)「どうしたの?」

みっぺ「わあ、木がしゃべった!」

(さこくん)「あたりまえじゃないか。」

みっぺ「そうなの……? じつは、道にまよっちゃって。」

(そらまめ)「それなら、ぼくたちの国に来なよ。」

(うた)「まもり神さまにお願いをしてみたらいいよ。」

◎みんな、ハケる。

音楽。

1…まもり神さまを信じる人たち

みっぺ「へえ、この像がまもり神さまなんだ。」

まい「うん。まもり神さまはわたしたちのヒミツをこっそり聞いてくれるのよ。」

◎ななこ、うた、キクケン出てくる。この合宿での良かったことや良くなかった

ことを話す。

うた「まもり神さまはわたしたちの悩みを聞いて、かわりに涙を流してくれる

の。」

キクケン「その涙なみだでこうやってポロポロになっていつてるんだ。」

うた「あ、ここよごれてる。」（ななこと一緒に拭ふく）

みっぺ「へえ〜。わたしも悩みを聞きいてもらおっかなあ。」

まい「きつとまもり神がみさまよろこぶと思うよ。」

みっぺ「うん。」

まい・ななこ・うた・キクケン「じゃあ、またね〜。」

◎まい・ななこ・うた・キクケン、ハケる。

## 2..まもり神がみさまを信じない人しんたち

◎そらまめ、まめちゃん、出でてくる。

そらまめ「あいつら、ホンマにこの像ぞうのことまもり神がみやと思おもってるんやな。」

みっぺ「あ、王様おうさま。」

まめちゃん「はずかしいから信じない方ほうがいいですよ。」

みっぺ「え、そうなんですか？ でも、かわりに泣ないてくれてるって……。」

まめちゃん「わたしも昔むかし、祈いのったことがあるんですけど、何なにもいいことなかったもん。」

そらまめ「それに、あの殿様とのさまの地位ちいをおびやかすためにも、さっさと潰つぶしてしまつたらいいねん。」

◎そらまめ、まめちゃん、像ぞうにタイキックをしてハケる。みっぺも追おいかけてハ

ける。

### 3..修理しゆりする人ひとたち

◎さこくん、てっぺい、デリシヤス出てくる。

さこくん「ほな、今日きょうもがんばって修理しゆりしましょか〜。」

てっぺい・デリシヤス「へーい。」

てっぺい「いやあ、しかし、ボロボロですね。」

デリシヤス「こんなボロボロやと、いっそ潰つぶしてしまった方がええんとちやいまず?」

さこくん「アホか。この像ざうがボロボロになってくれるおかげで、オレらに仕事しごとがあるんやないか。」

てっぺい「さっすがお殿様おんさま。」

さこくん「やから、かまいたちさんを雇やとって、なみだを流ながさへん日ひでもちよつとずつ壊こわしてもらってるんやないか。」

てっぺい「かまいたちさん、今日きょうもやったってください。」

◎たこす、出でてくる。シュツシュツシュツと、像ざうを切きる。

さこくん、デリシヤス、てっぺい「おお〜。」(拍手はくしゅ)

デリシヤス「かまいたちさん、この仕事しごとを初はじめて何年なんねんぐらいになるんですか?」

たこす「はじめて。」

デリシヤス「はじめて! はじめてでこの実力じつりょく……。なにか切きるときのコツは

あるんですか？」

たこす「無い！」

デリシヤス「天才だ……！」

さこくん「お金はまた振り込んできますからね。」

◎さこくん、デリシヤス、てっぺい、たこす、ハケる。

(みっぺ)「数日後。」

音楽。

#### 4…国の人の話し合い

◎みんな、出てくる。

みっぺ「えー、どうもですね、近頃、このまもり神像の傷が深くなり続けている

ということが判明しました。専門家の調べによると原因は、“なみだの流しすぎ”  
のようです。」

まい・ななこ・うた・キクケン「えー！」

そらまめ・まめちゃん「やっぱり。」

みっぺ「なみだの成分は非常に強力で、このままだと、この国の森がすべて枯  
れてしまう恐れもあります。」

うた「え、そんなんなったらわたしたち死んでしまうやん……。」

そらまめ「ヤバいって。すぐに潰してしまおうや。」

みっぺ「これはこの国全体の問題です。みなさん、この問題の対策について、意見を

お願いします。」

「はい。私たちはまもり神さまをまもる事が大事なので、もう悩みを打ち

明けないことにします。」

「うた・キクケン」「さんせい！」

さこくん「いや、像が傷つかへんかったら修理しているオレらの仕事はどうなる

んや。」

てっぺい・デリシヤス「そうやそうや！」

まめちゃん「像を残したらだれかがこっそり悩みを言うかもしれないわよ。」

そらまめ「そうだ！」

みんな「うーん……」

**この話し合いの続きみんなで考えよう。**

### ★問題

像の涙によって、像が壊れ、やがて森全体が枯れる。

### ★主張

・信じる派…像をまもることが大事。悩みを打ち明けることをやめる。

・信じない派…森が枯れる前に少しでも早く像をつぶす方がいい。



・修理しゅうりの人ひと…像ぞうがある程度ていど傷きずついていないと、自分じぶんたちの仕事しごとが無なくなってしままう。

★課題かだい

- ・像ぞうをまもると…だれかがこっそり悩みなやをうちあけるかも。など。
- ・像ぞうをつぶすと…信しんじる派はの人ひとは悲かなしくなる。修理しゅうりしている人ひとの仕事しごともなくなる。など。

話し合はないがああって……。

(まい)「そういえばずっと気きになってたんだけど、この国くににみっぺが来きたときに背せ負おってた人ひとって、だれ？」

みっぺ「え？」

(キクケン)「あれはたぶん、みっぺのまもり神かみだよ。」

みんな「ああ……。」

おしまい。

### 【作者より】

この作品は、参加者の子どもたちと一緒にウンウン考えながら作りました。特に「4・国の人の話し合い」のパートは、参加者の意見を反映させて完成する構成にしております。この台本を使用される場合、このパートは参加者と意見を出し合い、その結果を反映していただければと思います。一例として、巻末に私たちの話し合いの結果を掲載しておきますので、ご参考にしていただければ幸いです。もちろん、それをそのまま使用していただいても構いません。

名前がカッコで括られているセリフ【例：（まめちゃん）「むかしむかしのお話です。」】は、誰が言っても問題ありません。それらのセリフを言いたい人を募って適宜変更していただいて構いません。

余談ですが、この作品は『わが町』（ソーントン・ワイルダー）、『楡の木陰の欲望』（ユージン・オニール）、『フリドニア日記』（ケラリーノ・サンドロヴィッチ）等々の偉大な作品たちに多大な感銘と影響を受け執筆しました。感謝すると共に、この作品を捧げます。

### 【巻末資料】

「4・国の人の話し合い」(2019.7.31～8.3実施例)

まめちゃん「はい。像の涙が地面につかないようにするために、涙を受けるタ  
ンクをつくるといいと思います。」

みっぺ「なるほど。」

さこくん「干上がったところに像を移して、年に一回お祈りをするお祭をした  
らいいと思う。」

みっぺ「たしかに、干上がったところなら枯れる心配ありませんもんね。」

そらまめ「もうめんどくさいし、やっぱり壊したほうがええんちゃうんか。修理  
している人らには別の仕事を与えたらええやん。」

てっぺい「じゃあどうしたらええんや。」

そらまめ「王おうに対してその口くちの聞き方ほうはなんや。」

さこくん「うちの部下ぶかに何なにすんねん。」

みっぺ「まあまあ。」

◎そらまめ、てっぺい、さこくん、ケンカをしそうになるので、みっぺが仲裁ちゅうさいする。

まめちゃん「えー……じゃあ植林しょくりんしてもらうのはどうでしょうか。」

さこくん「その給料きゅうりようはどれぐらいもらえるんや？」

まめちゃん「それはちよつと……今はわかりません。」

さこくん「あ！ 泣なかない像ぞうを代わりかに作るつくんはどうや。」

てっぺい「そうや、新あたらしい像ぞうを作つくったらええんや。」

みっぺ「それだったらみなさんの仕事しごとも無なくならないですもんね。」

まい「でも、その新あたらしい像ぞうには本ほん当とうに神様かみさまがいるんですか？」

みんな「ああ……。」

キクケン「じゃあその像ぞうは神じん社しゃに置おいたらええんちゃうか？」

みっぺ「みなさん、たくさんのアイデアをありがとうございました。これ、今日けふ

中ちゆうに決けつめられるかなあ……？ どうします？ 今日けふ決けつめます？ それとも、ま

た今こん度どにします？」

ななこ「でもやっぱり今日決めた方がいいと思います。」

みっぺ「わかりました。では、どうやって決めましょうか？」

そらまめ「多数決でいいと思います。」

みっぺ「みなさん、多数決でいいですか？」

みんな「賛成。」

みっぺ「では、今回の話し合いで出た意見をまとめると、大きく分けて、“像を残す派”と“像を壊す派”のふたつになりますね。ではみなさん、どちらかに手を挙げてください。像を残す、という方？」

◎像を残す派、手を挙げる。

みっぺ「では、像を壊す、という方？」

◎像を壊す派、手を挙げる。

みっぺ「答えが決まりましたね。みなさんの答えは、○○という事でよろしいでしょうか？」

みんな「はい。」

みっぺ「ありがとうございます。では、○○派の中で出た意見の中でも、今後どのアイデアを採用していくかは、また後日決めていきましょう。今日はみなさん、

本当にありがとうございました。」

みんな「ありがとうございます。」はくしゅ（拍手）



エゴはかせコメント

像を残すかどうか、いろんな人が集まって決めています。像のことを信じている人、どうでもいい人、像に関わることで生活を支えている人、その人に雇われている人…などなど。

これって、世界の代表の人たちがやっていることと同じだな、と思いました。この劇は、作ったみんなが本当に「こういう立場だったら・・・」と役になって真面目に話し合いをして悩んで、その話し合う姿を見てもらおう、ということになってできた劇だそうです。

地球全体でみるとお金持ちの国、そうじゃない国、いろんな立場のいろんな状況の国があります。地球で何かを決めなければならぬときは、その立場の違う国の代表の人たちが集まって、最後は多数決で決めます。だからこそ、全員が納得するまで話す必要があるんです。

難しい題材を正面から描いていると感じました。